

# 日刊 勤労千葉

81.3.12

No. 688

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(電話)二九三五・六・七(三三三三)七二〇七

## 3月決戦ストを叩いぬいて 佐倉支部組合員の感想



連日、大量の公安機動隊との闘いであった。

◎青年部員 Cさん(二一才)  
「公安当局が労働者のスト弾圧に出てくるなんて許せない。」



長期大ストライキの先頭に立ち続けた佐倉支部堀口支部長。

◎検査長 Aさん(五〇才)

「これほどの長い闘いができるとは思わなかった。役員もたいへんだらう。春闘できるのだからか。この闘いで佐倉の検修・検査の団結が強まった。もっと支部の組織強化に力を入れるべきだ。千葉からオルグに入るべきではないか。よいチャンスではないのか。」

◎青年部員 Bさん(二四才)

「生きがいを感しました。青年部の団結はかつてなく強くなった。岡田屋の弁当はあきた。上屋が支配していたころの佐倉の青年部とは違ってかわって、今の青年部一人一人が生きてきたとして明るくなったと思う。」

### 支部一丸となつての闘いに誇りと確信

永い戦いが終わった。満足感と共に心身に快く良い疲れが感じられる。私達執行部は結成以来始めての経験であり、夢中で過したところである。しかし闘い終つた今、ふりかえって見ると助役機関士線見阻止闘争に突入し始めての大きき闘いの中に身を投じた時、とりはだの立つつを感じた。気心の知れた本部執行部の方々の指導及び各支部の動員者の方々の激励に依り、支部一丸となつて当局や「本部」派の妨害をはねのけ闘いを貫徹する事が出来た。乗務員や検修の人達が職

このストは労働者として当然の闘いをしたまでだ。」

◎青年部執行委 Dさん(二〇才)

「始めてのスト、あんな大きいストやった。ストライキってこういう風にやるのかと思った。俺らがやっているのに、『本部』のやつらはスト破りしている。こいつらを絶対に許さなす。掃除あるのみ。」

◎青年部員 Eさん(二〇才)

「勤労千葉の青年部員としてこのストライキは、おれら青年部の労働者として絶対にやらなくては行けない闘いだっと思ふ。これからもガンバロー！」

◎青年部員 Fさん(二〇才)

「『本部』派のスト破りに対して、同じ労働者として許せない。自分達の手でよりよい職場を作ろう。そのためには労働者を闘わなくては行けない。」

◎支部執行委員 Gさん(三二才)

「『本部』のスト破りー反労働者としての姿がはつきりとしたことである。『本部』派組合員は、『三役』に対して『無責任だ。おかしい。』と話しをし



線見訓練阻止闘争からジェットスト貫徹まで(2/19~3/6)の16日間、現場には活気が満ち溢れた。<写真は、乗務員話所の更迭一致>

ている。この闘いで土屋幹の『人気』が落ちた。機関士の中で、『本部』は闘争期間中、乗務員控所に入ってこなかった。闘争を通じて、いままでは佐倉支部役員について、『頼りがない』『何も知らない人が役員になっている』という『批判』が消滅した。『最も頼りになる人、堀口さん』という感じで、結成一年たつて、やっと役員が一人立ちをしたという感じである。役員も一人一人が役員としての自信をつけたと思う。」